
はじめに～効果的な対策法～

一部の自治体を除き、教員採用試験は選択式です。

例えば、教育法規と教育原理は、条文や行政文書（答申）などの文章が穴抜きとなり、適語を語群から選んだり（下記①）、こうした文章の内容と選択肢が合致するかを検討したり（下記②）する問題が大半です。

- ①「すべて国民は、健康で文化的な（ ）の生活を営む権利を有する」の空所に「最低限度」を入れる。
- ②「公立教員は地方公務員ですが、公務員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはなりません、その職を退いた後は、そのような拘束はない」に対して、退職後も秘密は漏らせないで誤りだと判断する。

といったものです。

したがって、結局は、何度もよく出る条文、**文書を読んで内容やキーワードを覚える**必要があります。それを踏まえて本書の有効な使い方を提示します。

Step 1 対策講義で出題の強弱・ポイントをメモして「対策本化」する！

この本は、対策講義で用いられます。そこでは、講師が「ここは覚えて」や「この部分がよく出ます」という話がなされます。時には、覚えやすい語呂やエピソード、具体例といったことが含まれるでしょう。

それらを、テキストにバンバン書き込みましょう。あるいは、マーカーなどを引いておきます。そうして、学習すべきところを明確にし、あなた独自の「対策本化」しましょう。ちなみに、マーカーは、下敷きなどで消えるものを使うと良いでしょう。

Step 2 重要度の高い箇所を何度も読み込む！

Step 1 で、覚える箇所の強弱がついたので、それにそって重要度の高いところから何度も読みましょう。そして、覚えたかを確認するため、下敷きなどでキーワードを隠して読むなどしましょう。

Step 3 過去問演習などを通じて、補足情報を書き込み、「参考書化」する！

講義が終わると、多くの人がご自身の志望自治体の過去問題集を購入し、問題演習でアウトプット力をつけることになると思います。その際、この本には、書かれていない切り口の言葉が出てくる可能性はゼロではありません。過去問分析から生まれた必要十分な知識量がこの本には書かれていますが、知らない事項が若干は出てくると思います。それを、関連する事項のページにメモをしていきましょう。そうして、参考書要素も加味されることで、一層の知識定着を図ってください。

このようなステップを踏んでいくと、テキストはボロボロに使い込むことになると思います。それは教員採用試験合格の学習に励んだ証です。試験会場に持ち込めば、合格できる自信につながるものとなるでしょう。

是非とも、上の活用法を参考に、自信につながるくらいテキストを「使い倒して」ください。皆さんの学習が捗ることを願っています。

アガルートアカデミー
教員採用試験対策講座担当講師より